

令和2年10月18日執行

飯田市長選挙公報

飯田市長選挙管理委員会



継続の挑戦

牧野が守っている！

牧野みつお

(59歳)

早稲田大学政経学部卒業後、日本開発銀行入行。同行フランス支店長を経て退職。平成16年10月飯田市長就任、現在4期目

市民の命と生活を守る！

市民・経済界・労働界・医療界・市役所、ワンチームでこの困難を乗り切ろう！

コロナ禍緊急対策として特別給付等を実施し、感染症対応の避難体制を構築、災害時逃げ遅れゼロを目指して弱者の不安を解消します。商工会議所や金融機関、労働団体と連携して、事業継続・雇用確保の各種緊急経済対策を進めています。

医療崩壊を防ぎ、地域医療を守っています。

誰一人、取り残さない！安全安心の地域づくり
出産、子育てからお年寄りまでさらに手厚く、人生百年時代の安心社会を目指します。

保育料の大幅軽減、病院併設の病児保育、子ども医療費の無料化などを県内に先駆けて実施、民間保育園・幼稚園の支援を大幅にアップして未満児保育の定員は573人増加、長時間保育を拡充し、発達支援を支える「こども家庭応援センター」を開設しました。さらに児童クラブの小学6年生まで拡大を推進します。

飯田市独自の地域健康ケア計画と「市民総健康」「生涯現役」を推進、民間老人施設を支援しています。

お産の数が県下トップの市立病院産科体制を強化、新型コロナ下でも里帰り出産の受け入れを維持しています。
不妊・不育や妊婦さんの心配ごと相談、不妊検査・治療費の助成や子育ての相談・支援を充実させています。

市立病院の高度医療と健全経営に注力、医師数は16年前から36名増加し民間医療機関との連携を強化、看護人材の確保も進めています。

小中学校で、低所得者世帯の給食費無料化、エアコン設置、トイレ洋式化を実施。この秋までに児童生徒1人1台のタブレット端末と高速通信ネットワークを確立し、家庭オンライン授業の環境を整備しています。

飯田らしい「環境のまち」づくりと、街中の賑わいづくりを進めます。

市民主体の文化・スポーツ・生涯学習の振興を図るため、3つのホール機能（新文化会館、市公民館、県公民館）の新しい方向を決定し、スポーツ振興の施設整備をさらに実施、伝統文化・文化財を保護・継承・活用します。

リニア駅の開業と三遠南信自動車道の早期全通に向けて、道路ネットワークの整備・促進を着実に進め、砂防事業などの防災事業に取り組みます。

「中山間地域振興計画」の実現と、観光業のコロナ対策支援を充実し、遠山郷観光の誘客を進めます。

地域産業の拠点「エス・バード」の機能強化・拡充と「信大南信州キャンパス」を拡充し、大学の学部開設を目指します。



佐藤たけし

私はマニフェストで『未来』を語っています。

『対話と現場主義』を貫き

みなさんと一緒に新しい飯田市をつくります。
飯田市は、日本一住みたいまちになる！



- ① コロナ対策は「いのち」も「暮らし」も「経済」も！
- ② リニアと歩む、未来志向のまちづくり
- ③ 豊かな自然環境や地域資源を活用した子育て教育を推進
- ④ 環境をテコに経済再生！
- ⑤ 親切で頼れる行政サービスへ！
- ⑥ 若者が帰ってこられる環境整備に全力投球！
- ⑦ 持続可能な美しいまちづくり
- ⑧ 注目の医療、充実の介護サービスを提供！
- ⑨ 住みたい！ 生きやすい！ 社会へ
- ⑩ 文化やスポーツ、生涯学習で人生にうおいを！
- ⑪ やらされ感のない地域づくり
- ⑫ 市長を先頭に災害対応にあたる市役所体制
- ⑬ 道路ネットワークの整備で生活や経済活動の基盤づくり
- ⑭ 飯田市の弱点である情報発信や広報強化

新環境文化都市

対話するリーダー

未来に向けて

市政を変えよう

佐藤たけしプロフィール

生年月日 1967年10月

住 所 飯田市鼎名古熊

鳥取県庁、大分県庁の役職経験を経て、2011年5月～2019年3月、飯田市副市長。2019年4月、総務省へ。2020年3月末をもって総務省を退職。飯田市の未来のため、政治活動を開始。



（この選挙公報は、候補者から提出された原稿をそのまま印刷したものです）

かぶちゃん農園事件について、牧野光朗市長と佐藤健前副市長は、責任の所在を明らかにしていない。牧野光朗市長は「残念だ」と会見を行い、佐藤健前副市長は逃げて行った。行政執行権者である市長副市長が責任を取らずして、市長選において市民の信を問うことは社会通念上考えられないことであり、民主主義の根幹にかかわる。

熊谷章文